

こくろう秋田

国鉄労働組合
秋田地方本部

秋田市中通
7-2-21

018-832-3775

【発行責任者】
瀬下一司

【編集責任者】
佐藤浩一

「なくせ！ワーキングプア・貧困と格差」

6・1県民集会開催！

1日(日)、大町ビルで労働組合を中心に約80名が参加し、県春闘懇主催の集会が開催されました(国労の参加者は7名)。代表世話人のひとり星野県労連議長の後、沼田弁護士(秋田中央法律事務所)が「ワーキングプア、貧困、格差をなくす」と題し講演を行いました。

講演内容は、「憲法記念日の特集では、例年までは9条論議であったが、今年は25条(生存権)に焦点が当てられた。それだけ貧困・格差が問題視されているということだろう」と前置きしたうえで、生存権裁判と

ダンブ労働者の実態 田中喜三男(建交労)、高校生家庭の状況 大塚久司(高教組)、各氏からそれぞれの分野の報告が行われました。

西丸さんは制度の不備と問題点について、鈴木さんは「世界的な異常気象やバイオ燃料などで食糧不足が懸念されている中で、日本は今年からついに4割減反を押し付けてきた」と報告。田中さんは「ダンブ労働者の収入の半分は燃料費に消えていく。その他経費を差し引けば所得は140万円程度にしかない」、大塚さんは「高校授業料の減免申請が増えている。日本の奨学金制度は返済制であるため、卒業と同時に多額の債務を抱えて社会に出て行くことになる」など、小泉「構造改革」がもたらした格差・貧困

国保税減免裁判の内容と闘いの意義、深刻化するワーキングプア・貧困の実態を明らかにしながら政治革新の重要性と展望についてなどでした。

その後、各分野からの発言として、後期高齢者医療制度 西丸功(県社保協)、農業経営 鈴木万喜夫(農民組合)、



1日(日)、大町ビルで労働組合を中心に約80名が参加し、県春闘懇主催の集会が開催されました(国労の参加者は7名)。

が分野を問わず拡大している実態が浮き彫りにされました。それだけに、統一して闘う条件が拡大しつつあり、昨年の参院選で示されたように政治革新の可能性が拡大しているともい

えよう。

また報告の最後に、不当解雇撤回を闘っている建交労新秋官業労組の仲間から、闘いの報告と支援への訴えがありました。

集会後は中央通りのデモ行進

に移りましたが、ちょうどこの日は建交労秋田県本部のダンブデモも行われ、みずほ銀行前ではダンブデモにエールを送ってからの出発となりました。

「JR不採用事件」の早期解決に向け、議員、団体へ要請行動を展開

6月4日、地方本部は「JR不採用事件」の早期解決に向け、農林・商工委員会所属の県会議員、政党、団体などに対する要請行動を展開しました。

小坂町にある川口議員の事務所では母親が対応、青森県境近くの自宅まで訪ねてきてくれたことに甚く感謝されました。

また、中弘南黒地区労連では

20箇所に対して協力要請を行いました。事前の連絡が功を奏し、中にはゴム印と印鑑を持って迎えてくれた事務所もありました。

今回の行動は、各議員に対しては昨年9月議会から継続審査となっている「JR不採用問題の早期解決を求める意見書」請願に対する協力要請、各団体に對しては本部から提起されている鉄道・運輸機構に対する「国鉄労働者1047名JR不採用問題の全面解決を求める要請書」署名と物販販売への協力要請を中心に行なわれました。

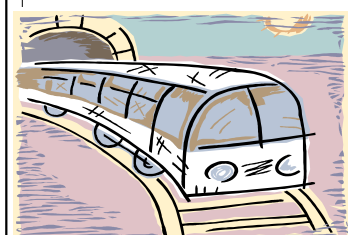
佐藤事務局長が対応し、かつて国労が取り組んだひまわり号などの運動に対する共感と国労に対する期待が寄せられました。

◆**県南チーム**では神谷副委員長、横手大曲工務連合・高橋(英樹)書記長と小林、久米両執行委員とが二手に分かれ、東海林議員(いぶき)、小松議員(自民)、柴田議員(自民)の他7団体に對して要請を行いました。その中で、農林・商工委員会の委員長でもある柴田議員からは継続審査になっている請願については、この

◆**県北・津軽チーム**は渡邊書記長、北奥羽連合・岸部分会長の2名で能登議員(自民)、川口議員(自民)を訪問。あいにく両名とも直接本人と会って要請することはできませんでしたが、

◆**中央チーム**は伊藤副委員長、高橋(毅)執行委員、秋総車七支部・高橋(誠)委員長で市内中央部の政党(共産党、社民党)弁

6月議会において結論を出したい旨の意向が示されました。



核兵器廃絶を訴え、国民平和大行進

土崎集会

「原水爆禁止2008年国民平和行進」が秋田県に入り、9日、18時から土崎駅前公園において



地域の労働組合や民主団体など約50名の参加で集会が開催されました。

挨拶に立った風間幸蔵実行委員長は「土崎は日本の最後の空襲地となっただけに平和に対する格別

たる思いがある。戦争への道を許さず草の根から反戦・平和の運動を」と訴えました。

その後、通し行進者である渡辺正郎さん（東京）、小田正さん（新潟）からそれぞれ挨拶が行われ、渡辺さんは「5月6日に礼文島を出発し6月1日に本州に入った。80日間という長

丁場でまだ半分以上残っているが、気力・体力も充実しており、最後までがんばりたい」、小田さんは「通し行進は新潟原水協50年の快挙と騒がれてプレッシャーを感じるが最後まで歩き通したい」と決意を述べられました。

集会終了後は土崎ジャスコ前までデモ行進を行い、沿道の通行人や住民に対し、「核兵器廃絶」や「平和憲法擁護」などを訴えました。

集会には秋田総合車両センター支部から組合員18名が参加しました。また、集会で回したカンパ袋には1万円が集約されました。

秋田中央集会

10日、アゴラ広場において参加者約130名で秋田中央集会が開催されました。

斎藤重一実行委員長は「アメリカのキッシンジャー元国務長官なども『核兵器のない世界を』と提唱している。核にしがみついているのはほんの一握りの国だ。核兵器廃絶に向け、闘いの輪を広げよう」と挨拶。通し行進者の2人の挨拶に続き、日本共産党鈴木知さんが連帯の挨拶を行いました。

集会宣言を採択した後、デモ行



進に移り、広小路から中央通りへと「核兵器はすべて廃棄せよ!」「アメリカはイラク戦争をやめよ!」「青い地球を守れ!」などのシュプレヒコールを響かせ、秋田駅前

ウォーキングと温泉でのんびり 家族会に参加しよう!

◇日時： 7月6日（日） ◇場所：サンルーラル大湯 ◇参加費：無料
大湯村自然生態系公園ウォーキング、第27回家族会総会、懇親会など
★送迎バス 秋田駅東口10:10出発～土崎消防署～追分～八郎湯経由で大湯村へ
帰りはサンルーラル大湯15:00出発予定です
参加希望は6月末日まで地方本部または横手地区協までお願いします

